

令和5（2023）年度 第2回社会教育委員会議 議事録

1 日時

令和6（2024）年1月18日（木） 午後2時～4時30分

2 場所

柏崎市市民プラザ 2階学習室 201・202

3 出席者

【委員】中村（義）委員（委員長）、長谷川委員（副委員長）、清水委員、中村（聡）委員、小林委員、小玉委員、遠山委員、櫻井委員、矢内委員、金子委員、本間委員 [計11名]

【欠席委員】竹内委員、横田委員 [計2名]

【事務局】窪田文化・生涯学習課長、押見課長代理、小林主査、小岩井主査 [計4名]

4 概要

(1) 会議成立の報告、配布資料の確認、開会挨拶

（事務局から会議成立の報告）

（事務局から資料の確認） ※省略

（事務局から開会挨拶） ※省略

(2) 議題

（議長から挨拶） ※省略

1) 第四次生涯学習推進計画進行管理について

事務局	事前に委員から頂いた意見を取りまとめたものを皆さんに配布した。また、進行状況の内容についても概略について事前送付した。 新型コロナウイルス感染症の第5類への移行により、全ての事業は実施や計画をしている状況である。 概略をお送りした後に懸案事項が出たので、説明する。県事業のいきいき県民カレッジが令和5（2023）年度で終了するとの通知があった。当市でも対象講座が多いので、文化・生涯学習課や市立図書館では、その事業に代わる事業を考えている状況である。また、なぎさ体験塾は東村山市から令和6（2024）年度から中止するとの申し出があった。どちらも本計画には載っているが、進行管理の対象から外したいと考えている。
委員	県民カレッジが終了する理由は何か。
事務局	県の財政難と県民の学習が定着したことによる目標達成が理由と聞いている。
議長	なぎさ体験塾は、昔は、学校同士での交流を行ったこともあり、

	長く続いた事業なので中止になるのは残念だと思う。東村山市の意向であればしかたがない。皆さんの意見をお願いしたい。
事務局	今意見を伺う前に、各委員から事前に頂いた意見の一部を説明する。ふれあい講座の進捗状況について、12月末までに44件申込みがあった。75講座中、申請の多かったものは、マイナンバーカードに関するもの（企画政策課担当）が最多で4件、次いで空き家問題の講座（建築住宅課担当）が3件、やさしい住民税（税務課担当）が2件あった。
委員	マイナンバーカードの講座は私も参加した。カードの問題が発覚した後だったので聞いていた人は冷めていたような気がする。聞いて楽しい講座には人が集まるが、学ぶ講座にはあまり来ない。 いきいき県民カレッジは表彰状が特典になっているが、表彰状離れが進んでいる。いきいき県民カレッジに代わる事業を検討しているとのことだが、特典が魅力あるものにしてもらいたい。
委員	文化・生涯学習課で担当しているふれあい講座はあるか。
事務局	直接担当している講座はないが、シェール劇団公演は所管している。シェール劇団はかつての青少年育成委員から成るもので、振り込め詐欺など注意喚起を行っている。

2) 令和6年度第24回新潟県社会教育研究大会柏崎・刈羽大会 兼第63回中越地区社会教育研修集会柏崎刈羽大会について

事務局	令和6（2024）年10月9日（水）の午後に市民プラザで開催することが決まっている。現地開催とオンライン開催とで行うハイブリッド形式を考えている。 分科会は3つ予定しているが、機材等技術上の都合でオンライン配信は講演会だけとする。他市町村の社会教育委員同士で顔を合わせて話したいとの要望があるので、現地開催を中心にし、情報交換会を開催する予定である。 前日8日の資料封入や当日の大会や情報交換会の運営を社会教育委員をお願いしたい。 大会構成員が柏崎市と刈羽村になるため、委員同士の交流を兼ね、開催前の会場見学や、普段の課題や現状を話し合う場を設けるかもしれない。その際は、参加協力できるか委員の意見を伺いたい。 また、講演会の講師は、開催地で選任するよう依頼が来ているので、柏崎市、刈羽村で地域活動を実施している方をお願いをしたいと考えている。
議長	今ほど事務局から説明があったが、委員の皆さんからの協力をお願いする。前日や当日の日程が分かれば教えてもらいたい。
事務局	前日準備は午後から、当日は午前11時頃から確認作業をしたい

	と考えている。
議長	刈羽村との事前の顔合わせ会は開催してよいか。
委員多数	異議なし。
議長	今回の研修会は、情報交換会を予定している。委員同士、心の内を打ち明けられる会になればよいと思う。また、コロナ禍で開かれていなかった情報交換会を反省会も兼ねて行うと考え、委員の皆さんには、ぜひ参加してもらいたい。
議長	当日の委員の役割はどうなるのか。
事務局	今年度の県の研修会では、委員の方は受付や案内係などをしていった。司会や進行は職員になると考えているが、詳細は、県等と確認することになる。
議長	資料に挙がっている人とは別に、委員の皆さんから意見を聞きたい。講師の候補はいるか。
全委員	意見なし。
事務局	新潟産業大学准教授に依頼する方向で、刈羽村や中越教育事務所の了解をとって講師を決めたい。

3) 自主研修（コミセンとの連携）について

事務局	委員の調査により、9つのコミセンの状況を取りまとめたものを本日配布した。
議長	調べた委員に補足説明してもらい、それに対し、質問、意見を持つこととしたい。 (以下各委員から調査内容について報告)
委員	比角コミセンについて説明する。 利用人数が多い館である。新型コロナウイルス感染症の第5類移行により活発に活動している。委員自身は平日昼間に行ったことがなかったが、平日はほとんどの部屋が予約で埋まっていた。 利用する年齢層が高めの方と、決まってしまうことが課題。昔はサークル活動などで親子の参加もあったが、働く母親が増えたことで小学生や中学生は学校帰りに利用することが多くなっている。高校生以上の若い世代の利用が少ないことも課題になっている。 今後は、若い世代の人もコミセンに来てもらうよう変えたいという気持ちが大きい印象を受けた。 コミセンと市とはあまり接点がないことが課題に挙げた。柏崎公民館で行っている講座をコミセンでも受け付けられるようにしたり、あいくる（柏崎市 AI 新交通）を活用した地域活動をしたりたいという意見があった。
委員	北条コミセンについて説明する。

	<p>いろいろな世代が利用している。児童・生徒を取り入れることで家庭とつながり、広がっていくとの意見があった。</p>
委員	<p>剣野コミセンについて説明する。 中学生の自習室として開放している。居場所として親も安心できる。部屋はいつも同じ人が利用しており、利用者が広がらないことが課題になっている。</p>
委員	<p>田尻コミセンについて説明する。 コミュニティの要素が強く、貸館の需要がある。子どもを地域で育てることを目標としている。講座に参加していた人達がコロナ禍で離れてしまい、参加者を増やすことが課題になっている。</p>
委員	<p>半田コミセンについて説明する。 委員であることを伏せて草取りボランティアに2回参加した。いろいろな世代を取り込んでいる印象だが、高校生や20代の利用はとて少なかった。 トレンドと、それを教えられる講師とをセットで知れば（誰かに紹介してもらえば）、講座が運営しやすいと考えている。 紙ベースの広報では読んでくれない人が多く、周知方法に悩んでいる様子。個人情報の漏洩を恐れ、SNSの活用には消極的。子どもと高齢者をつなぐようにはしているが、伝統の継承などができない。 社会教育委員であることを言ったところで、その存在がコミセンには知られておらず、話しづらい。</p>
委員	<p>西中通コミセンについて説明する。 サークルは15~16団体程度あり、大人気なのは太極拳。鯖石川改修記念公園で松波コミセンとタイアップして米山を見ながら太極拳をしている。 大正時代、刈羽節成きゅうりの種を販売して地域の経済を回していた。現在は小学5年生が復元プロジェクトを行っており、そのきゅうりの漬物を作ってコミセン祭りで小学生が作った米と併せて販売している。コミセンが地域と学校をつないでいる印象を受けた。</p>
委員	<p>高田コミセンについて説明する。 今年度から「たけだ竹あかり」など、新たなことに取り組んでいる。 活動は活発に行っている。ただ、高齢化して若い人が入れない状況がある。イベントは人がいないとできないが、手を挙げてくれる人が少ない。町内会長が声を掛けて人を集めている。 防災訓練は北条コミセンの情報をもらいながら行っていて、関心が高い。</p>

委員	<p>西山コミセンについて説明する。</p> <p>令和4（2022）年4月に4つのコミセンが統合し、令和6（2024）年度まではそれに伴う補助を市から受けている。</p> <p>若者の参加が少ない。新しい取組みとして、ホームページやLINEを使って情報提供している。今年度末で専門委員の入替えがあるが、今までは集落割で役員を選出していたところ、旧4コミセンの地区ごとの選出に変えてからは、女性の委員が増えた。</p> <p>2月4日、二田小と内郷小の総合学習発表会と生物多様性講演会を開くので是非来てほしい。</p>
委員	<p>大洲コミセンについて説明する。</p> <p>体育館利用が多い。赤坂山のそばに建っているため番神の人だと来るのに30分掛かる。距離があり、講座に来られる人が限られるので講座の提案がしづらいとのこと。</p> <p>健康情報があると発信しやすい。地域見守り活動をコミセンで発信。子1人に対し1人の大人がボランティアでつく。</p> <p>若い世代は子の塾などがあって親子講座を組みづらい。</p>
議長	<p>今ほど皆さんからコミセンの現状を説明してもらったが、社会教育委員は「地域実態を把握する」仕事もある。そのため、皆さんから地元のコミセンの状況について調べてもらった。また、社会教育は、地域づくりにもつながっている。地域づくりをしていくには何が必要なのか、どう取り組んだらいいのかを考えていく必要がある。</p> <p>状況を確認すると60～70代の利用者が多いということだったが、今は70歳まで働くので平日は仕事をしている人も多い。そうすると昼間の講座に参加する人は60代後半から～80代が主だと考える。仕事をしている人は夜間や休日しか参加できないが、コミセンは夜の講座が作れないのが現状。土日はコミセンが休みで、貸館利用が多い。</p> <p>難しい課題だが、社会教育として柏崎市に必要なのは何か。公民館本館（市民プラザ）から分館に何を伝えていけば良いのか。社会教育委員として何を伝えていけば良いのかという視点で意見を出してもらいたい。</p>
委員	<p>高田コミセンは午前8時から職員が出勤しているのか。</p>
委員	<p>話を聞いた時には8時からと言っていたので、利用できる状態にしていると思う。</p>
委員	<p>本館は文化・生涯学習課が運営しているが、コミセンはそれぞれ別の組織が運営している。そのため外部から何かを言うのはおこがましい。</p> <p>現状は分かった。コミセンでは、アンケートをとって全体計画を</p>

	<p>作ったが、講座実施後のアンケートを取らない所もある。事業がマンネリ化しているが、新しいことをするのが難しいのではと思う。</p> <p>人材バンクを見たら、同じ人がいろいろな所へ行っているようだ。</p> <p>市民が何を望んでいるかを聞かなければならない。参加者の声を事務局（コミセン）がまとめてしまう。まとめてしまうと意見が見えなくなるケースもある。参加者の声を出してほしい。</p> <p>田尻や半田、新道・野田・別俣のコミセンまつりに行ったことがあり、それぞれ特徴ある事業を実施している。松波コミセンのハロウィーンは歴史があるのではないか。</p>
委員	<p>コミセンに行くと、指導員やスタッフが一生懸命取り組んでいるのが分かるが、枠を出たがらない。「他のコミセンで人気だからやってみたらどうか」と住民目線で話を持っていっても、受け取ってもらえない。住民発生型でやっていけば地域づくり、活性化になる。メンバーも住民サイドで集めると言っているが、コミセンには新しいものを創造する気概が感じられない。</p> <p>団塊の世代のことを考えると会場に車で来られない人たちがこの5年で増えるが、それをコミセンは見越しているのだろうか。</p>
議長	<p>アンケートをとっていないコミセンが多い。剣野コミセンは参加者の感想を職員が聞くようにしている。</p>
委員	<p>剣野コミセンのように口述アンケートは効果的だと思う。</p>
委員	<p>講座を開いても、主事が参加していないので参加者から聞き取りができていないこともあるようだ。参加者の声を聞くということは、とても良いことだと思う。</p>
委員	<p>中には、主事が新しい事業を提案しても採用されないこともあるようだ。新しい事業を実施するには、大きな労力が必要になるからだと思う。</p>
委員	<p>それは、できない理由を考えてしまう人が多いからではないか。</p>
委員	<p>どの町内会にも青年会などがある。青年会が行うものは運動会などあるが、青年会の行事には、若い夫婦などが選手や応援などに参加している。このことから活動の場所を欲している若者は多いと思われる。コミセンは講座づくりだけではなく、定期的に地域の青年とかかわって、各町内をつなげてほしい。</p>
議長	<p>コミセンは地域拠点なので、地域のつながりをつくることも目的のひとつだと思う。人がいなくなるとサークル自体も消滅してしまうのではないか。</p>
委員	<p>文化・生涯学習課で取り扱っている社会教育団体も減っているのか。</p>
事務局	<p>社会教育団体として高齢化により解散する団体もあるが、新規に</p>

	登録する団体もある。現在は180団体ほどある。
議長	<p>コミセンは文化・生涯学習課の管轄ではなく、予算も担当の市民活動支援課から出される。そのうち、社会教育・生涯学習分として70万円が上限で出ている。活動はしているが規模が小さくなったりマンネリ化したりしているところもある。</p> <p>コミセンと公民館分館、この2つを一体化して分館の役割を持たせたが、分館という意識が減少したと感じる。公民館としての働きは柏崎公民館（中央公民館）しかない。分館には社会教育の性質も持たせるとなっているが、職員のその意識が低いのが課題だと思う。</p> <p>子どもの居場所を作ったり学習のための部屋を提供したりして若者が出入りしているコミセンもあるが、集まった若者を地域づくりや社会教育に巻き込むような活動はしていないと考える。</p>
委員	私の住んでいる地区は住民が少なく、コミセンの部屋が空いていることが多い。場合によっては、空いている部屋を有効活用することもできるのではないか。
委員	コミュニティバスの利用は一律で決まっている。そのため、取り合いになっている。住民に対応した回数に増やしてほしいとの要望もあった。
委員	<p>私の地区では、若者が集まらない。青年団があるとよいが、新しい地区は集まりにくい。</p> <p>コミセンは小学校での運動系部活でよく活用されている。</p>
委員	運動系の部活では夜間の学校体育館を使っている団体もある。体育館も場所によっては、混み合っているところもある。少し離れると割と空いているところもある。地域差が出ているのだと思う。
委員	夜のコミセンは、保護者が指導者となり、小学生が使っているケースが多いと思う。
委員	<p>各地区の主事も新しいことを行う意欲はあるが、人や予算が少なく、今までやってきたことを維持するのに四苦八苦しつつ、工夫して事業を進めている。主事達が苦勞しながら、今のコミセンの活動ができていたのだと思っている。</p> <p>専門委員がいて仕事を分担しているから対応できているのであって、一つの委員会に全てを「コミセンの仕事」として丸投げされてしまったら、対応できなかつたと考える。原案や方針を示してもらったことにより、活動ができたと思っている。</p>
委員	地域づくりには、地域の核となるものが必要だと思う。それには、学校とコミセンの活性化が大事だと思う。
議長	今回皆さんからの報告により、現状については認識できたと思う。柏崎市の地域・人づくりや教育の観点からどうすればよいか、

	<p>公民館活動に対しての提案はできる。</p> <p>次回の会議ではコミセンには何が足りないのか、何をすると活性化するのか考えたいので、もう一度地域の様子を見てもらい、地域のまとまりがどのようなになっているか等について意見をいただきたいと考える。</p>
--	--

(3) その他

事務局	<p>毎年、中越地区社会教育委員連絡協議会では、『中社連会誌』という冊子を作成している。社会教育委員の思いや考え、活動を掲載している。その中には会員の声という欄がある。今年度は本間委員にお願いした。毎年寄稿の依頼があり、基本的には何を書いてもよいものなので、来年度以降も執筆をお願いしたい。</p> <p>また、令和8（2026）年度には社会教育委員の県大会で柏崎市が自主研修を発表する機会がある。その間に委員改選があるが、次の委員に引き継げるように発表内容を検討してほしい。</p>
-----	--

(4) 閉会挨拶

（副委員長から閉会挨拶） ※省略